

金融市場NOW

ECB 量的金融緩和の拡大決定

ECB(欧州中央銀行)決定内容

ECBは12月3日の定例理事会において、今年3月より開始した量的金融緩和の拡大を決めました。

現在ECBは、国債を中心にユーロ建て債券を毎月600億ユーロ(約8兆円)のペースで域内の金融機関から買っています。市場の期待が大きかったとみられる購入額の積み増しは今回は見送られました。また、政策金利は過去最低の0.05%で据え置かれました。その主な内容は以下の通りです。

- ① 「少なくとも2016年9月」までとしていた量的金融緩和の実施期間を、「少なくとも2017年3月」まで延長する。
- ② 購入対象にドイツの州政府等が発行する地方債を加える。
- ③ 銀行が余剰資金をECBに預け入れた際に課す手数料(マイナス金利)を、従来よりも0.1%ポイント上乘せし、マイナス0.3%とする。

市場の反応と今後の見通し

【市場の反応】

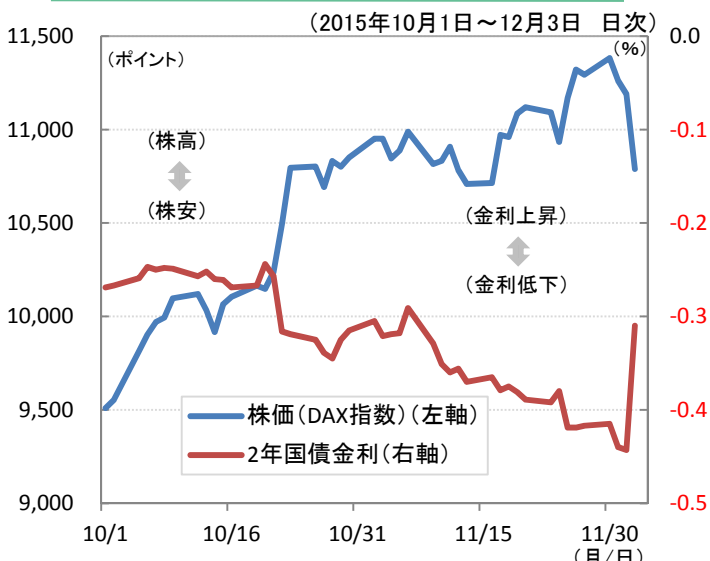
今回のECBの決定内容は市場の期待を下回るとの判断等から、3日の欧州主要国の株式市場や債券市場(価格)は下落(金利は上昇)し、売り込まれていたユーロは米ドル等他主要通貨に対して急反発(ユーロ高)しています。欧州市場の動きは米国の株式や債券市場等他の市場にも影響を与えています。

【今後の見通し】

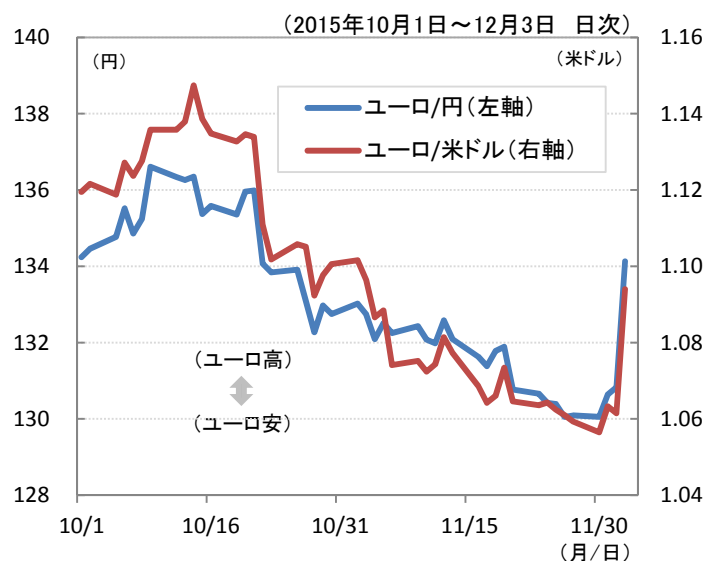
失望感による株式等の持ち高調整の動きは短期間で一巡するものと思われます。12月15~16日の米利上げに関するFOMC(米連邦公開市場委員会)の結果によっては、一時的に値動きが荒くなる可能性もあります。しかし、その後はクリスマス休暇入り等で売買が手控えられる可能性もあり、年末にかけて再び落ち着きを取り戻すものとみています。

尚、今後のECBの追加緩和については、購入額の増額等が必要とする見方と、失業率等経済指標の一部には改善傾向が見られており、これまでの金融緩和の効果を見守るべきとする意見が拮抗した状態が続くようです。

図表1:ドイツ株価(DAX指数)と2年国債金利推移



図表2:ユーロ(対米ドル、対円)推移



出所: 図表1~2はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成